

あした 未来へつなぐ

【地域共生】

環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



前身の『地域医療連携室』は平成14年に開設。連携医療機関からの紹介患者数は毎年、約200件ずつ増えているという。院内にはそれら医療機関を地区別に記したマップ「かかりつけ医」ナビを設置

「JR札幌病院(旧札幌鉄道病院)では、 ”かかりつけ医”と連携し、質の高い医療を提供する 『地域医療連携センター』を開設

昨年八月、建て替え工
事の完了とともに、

JR札幌病院へと名称を更
更した札幌鉄道病院。これ
を再出発ととらえ、新たな一
歩を踏み出した同病院では、
急性期病院としての役割を
果たすため、一階部分に『地
域医療連携センター』を開
設しました。

その名の通り、地域医療と
の連携を目的としたこのセン
ターは、周辺の医療機関や介
護・療養施設からの受け入れ
と退院後の支援を行い、患者
一人ひとりを総合的にサポ
ートするための施設です。以
前は別々に機能していた地
域医療連携室、医療福祉相談
室、訪問看護センターを統合
し、専任の看護職

や医療ソーシャル
ワーカーを置くこ
とで、患者や家族
のニーズにきめ細
かく対応できる体
制を実現しました。
「医療連携とは、
特別な検査や入院
治療が必要になっ
たときに、患者さま
がいつもかかって
いるクリニックや
診療所からのご紹
介を経て当院が治

療し、退院後は治療経過など
の情報をおかかりつけ医に提
供して、互いに協力しながら
継続的に患者さまをサポート
するシステムのことです」。

そう説明してくれたのは、同
センター看護師長の坂本瑞
江^{さかもとみず}さん。患者にとってはそ
れが理想の形ですが、すべて
の人が入院する前の状態ま
で回復して退院できるわけ
ではありません。そうした
場合は、医療・療養施設や介
護サービスを紹介したり、在

宅ケアの援助をしたりと、そ
の患者にとって最善と思われ
るプランを提案します。「た
だ、どんなに充実したプラン
でも、患者さまやご家族に納
得していただけなければ意
味がありません。そのため、
センターの職員だけでなく、
医師、患者さまと直接関わっ
た病棟の看護師、管理栄養士、
薬剤師、リハビリ担当者など
とも相談しながら、何度も話
し合いを重ねていきます」。

高齢化の進行で国民医療
費が増大し、その抑制が国や
各自自治体の課題となってい
る状況では、一つの病院に長
期的に入院することが難し
くなっています。同センタ
ーが目指すのは、保健師や助
産師など専門職が多数在籍
する同病棟のメリットを活
かし、退院後も安心して生活
できるような質の高い医療を
提供すること。地域医療連
携“を推し進める中で、患者
の立場にたった医療のあり
方を模索しています。

退院後は、訪問看護による一
サポートも



← 医師、病棟看護師長、担当看護師、
退院調整看護師、医療ソーシャル
ワーカー、薬剤師、管理栄養士、
理学療法士らが集まって行われる
患者カンファレンス